

なごや東版



crabapple
岡本 充子
マールグルッペ

ニュース、情報よ下記へ
社会部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

瀬戸支局 〒489-0809
瀬戸市共栄通4-8
0561-82-3121 Fax 82-5316
日進通信部 〒470-0124
日進市池田町平子5-4
052-802-6133 Fax805-0217
春日井支局
0568-81-2036 Fax 81-2797
犬山通信局
0568-61-2612 Fax 61-2613
小牧通信局
0568-72-1177 Fax 72-6530

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp

地域の自然を守る実践の輪

瀬戸市品野地域で、産廃問題をきっかけに環境を守る大切さに目覚めた女性たちのグループ「なんじゃもんじゃの会」(鈴木輝子代表)が実践の輪を広げている。「地域の自然を守る」と、あついで、気持ちを重ね合わせ、地に足の着いた環境運動を展開させている。メンバーは意欲を燃やしている。

産廃問題きっかけ 瀬戸 女性ら環境運動グループ

らが集まり結成した。主要メンバーは約十人で、地域に向け産廃問題を分かりやすく伝えるミニ新聞を発行する活動を積極的に行っている。

メンバー自身が、行政による説明会などで飛び出す専門用語がよく分からず、「もっと勉強しなくては」と奮起したのが始まりだった。

新聞作りに取り組むうち、環境問題全般への関心が膨らみ、食用品のトレーやペットボトルの回収運動を推進したり、地域の井戸水使用状況を調査したり、さまざまの実践を広げてきた。さら



地域の環境を守ろうと力を合わせる「なんじゃもんじゃの会」のメンバー

た、市民発の自然保護条例制定を目指した勉強会

も始めている。産廃問題に関する地域の取り組みでも、会の女性たちの力が大きな役割を果たしている。

日ごろの活動を振り返り、メンバーは「まず自分たちの力を鍛えたい」と、ちゃんとものが言えない。「一人ひとりの住民に意識を持ってもらうのが一番難しいところ。など」と実感を込める。また、「今の自分たちの姿を、子どもたちに、しっかり見せておきたい」という思いも共通だ。

代表の鈴木さんは、「一歩足を進め入れたら、本当に自然を大事にしていることが、誰にも分かるような地域にしていきたい」と、緑が映え、花々に彩られた街のイメージを「さき」と描く。



同地域を含む同市北東部には産廃処分場が方々にあり、同会は昨年、新たな処分場計画への反対運動に伴って地元の主婦

に今後、地域での花壇作り運動、ごみ拾いによる環境浄化、スーパーマーケットなどでのマイバッグ運動などを展開していく計画だ。

毎週火曜、メンバーは品野東公民館に集まる。最近の会合では、地域で「このすばらしい緑を守る町宣言」をテーマにした案に意見が一致。また、

↑ 地域から集まったペットボトルを踏んで整理するメンバー。いずれも瀬戸市上品野町の品野東公民館で